

# 地方のデジタル化への対応

～ 地域でこそ、DXの実現を ～

令和4年8月 長崎県 企画部／産業労働部

政策監（デジタル戦略担当） 三上

※通称、三上DX（みかみデラックス）

# 講師（三上）の主な経歴



北海道室蘭市生まれ、道立室蘭栄高校（理数科）

- 1990年 名古屋大学工学部、大学院（航空宇宙工学専攻）
- 1996年 通商産業省入省（機械情報産業局 航空機武器宇宙産業課）
- 1998年 通商政策局 米州課 総括係長
  
- 2002年 防衛省 装備局 航空機課 部員（海上自衛隊担当）
- 2004年 経済産業省 産業技術環境局 産業技術政策課 課長補佐
  
- 2005年 内閣府 総合科学技術・イノベーション会議 参事官補佐
- 2005年 米国留学（ボストン大学大学院 技術経営学（MOT））
  
- 2009年 経済産業省 産業技術環境局 大学連携推進課 課長補佐
- 2013年 産業技術環境局 産業技術総合研究所室 室長
- 2014年 JETRO（日本貿易振興機構）ベルギー・ブラッセル事務所 次長
- 2017年 経済産業省 製造産業局 製造産業技術戦略室長 兼 デジタル戦略官

政府内で、技術・研究開発、イノベーション政策に関連する機関・部署を担当

- 2019年7月～ 長崎県庁 産業労働部 政策監（新産業振興担当）
- 2020年4月～ 上に加えて、企画部 政策監（デジタル戦略担当）【現職】

（家族）妻、長男（中3）、長崎市内に在住

（趣味）スポーツ・ジム（レスミルズBodyPump、Attack）、ストリート・ピアノ

# (やっています) 県内のDX啓発セミナー

## ■セミナーの開催状況

### ○市町 (首長、幹部)

長崎市、大村市、佐世保市、  
西海市、壱岐市、五島市、  
西海市、諫早市、東彼杵町、  
雲仙市、時津町、島原市

(調整中)

対馬市、新上五島町、佐々町

### ○県内関係機関・企業

長崎大学、県警本部、金融他

※ Society5.0、DX、IoT、VR・AR、  
ドローン・空飛ぶクルマ、MaaS  
(約1時間+質疑)

長崎県中小企業家同友会 長崎浦上支部 2021年7月例会のご案内

# 長崎県で実現する Society5.0・DX

## これからの社会・産業・行政の形

— 今を踏まえ、明日に備える —

有効な治療法の開発・ワクチン配布は今だ途上であり、当面、世界的に感染が続く見込みである。我が国でも、新型コロナ対策を前提として、社会・産業・行政それぞれにおける新しい体制・慣習(=新常態)への変化が求められている。都市部に比べて人材や資金などリソースに乏しい地方においてこそ、日々進展する高度なデジタル技術(AI、IoT、ロボット等)に目を配り、それらを積極的に受け入れ、上手く活用・実装していくことが求められる。本講演では、最近の技術動向とともに、国や県のビジョン・取組について紹介する。

報告者 **三上 建治氏**

プロフィール  
北海道出身、名古屋大学院(航空宇宙工学)専攻。経済産業省に入省、航空宇宙・IT等、技術研究開発行政に従事。産学官や地域のオープンイノベーションを推進。前職のデジタル戦略官では、中小企業IoT促進のほか、国の「空飛ぶクルマ」施策を推進。2019年、長崎県庁に転出。  
趣味はストリートピアノ、コナミスポーツ(ボドインブ/アタック)

令和3年 **7月27日(火)** 18:30▶20:30 (受付 18:00)

会場/ **長崎新聞文化ホール・アストピア**  
〒852-8104 長崎市茂里町3-1 Tel.095-844-2412

参加方法

会場地図: 浦上川、浦上川バイパス、長崎ブリックホール、ncc、原爆病院、アストピア、ココウォーク、長崎駅

< 本日の委嘱内容（調査項目） >

## 「地方のデジタル化への対応」

- ① 国として目指している方向性・姿
- ② DXを推進する他地域の事例
- ③ DXを推進するための課題
- ④ 課題を克服するための必要な取組

# 地方行政の DX は難しいが、やらんば

※民間と異なり、2つの役割が

①「自分」が変わる（自動詞）

→ 業務のカイゼン、効率化

②「地域内」を動かす（他動詞）

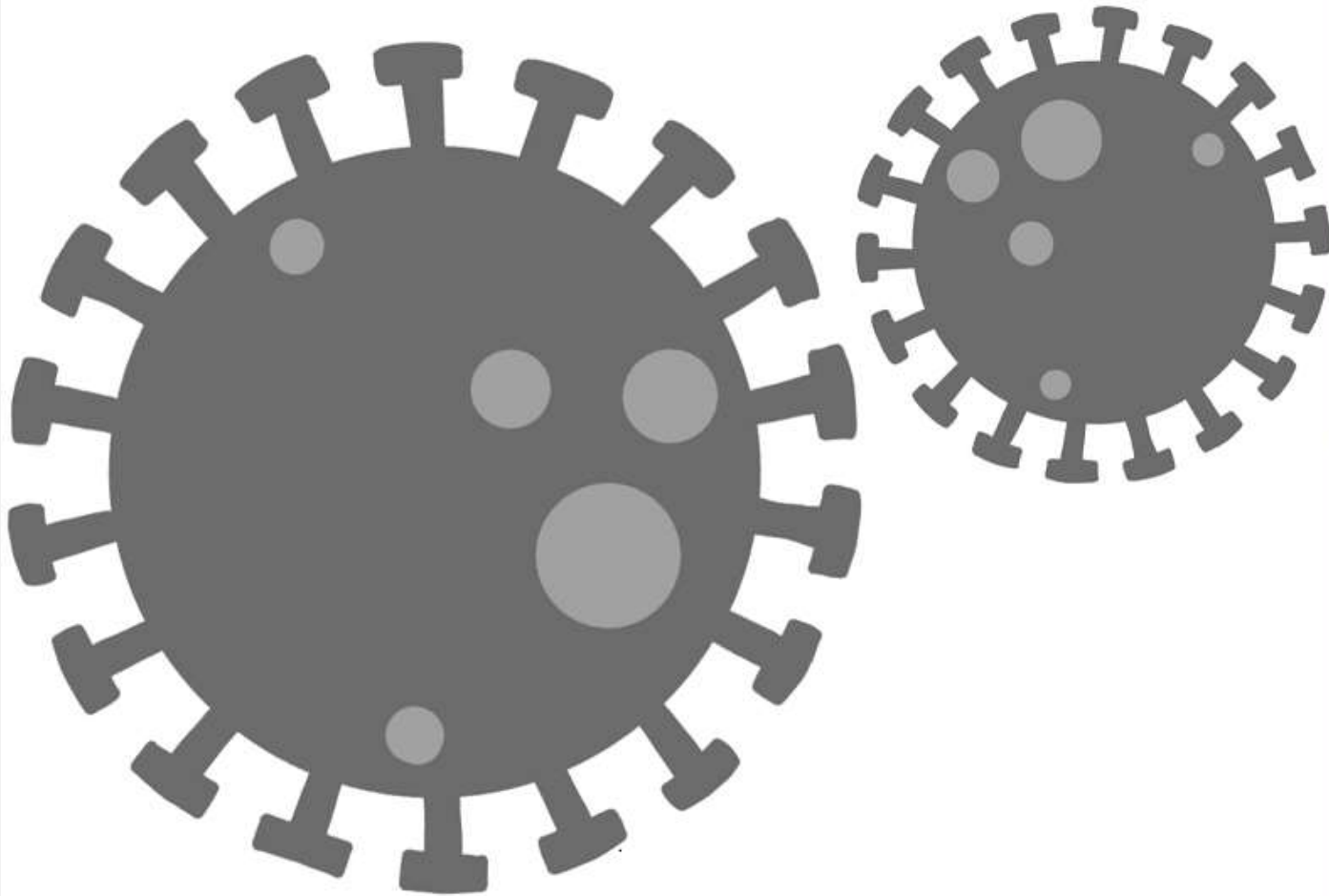
→ 生活の利便、経済の活性、  
イノベーションの実現

# これから来る世界・社会

皆様の想像よりも、

変化は速く、実現も早い

# 新型コロナウイルスの功罪



→ およそ 10年、**人類の進化**  
(社会・文明) を早めた

# つながる世界、社会



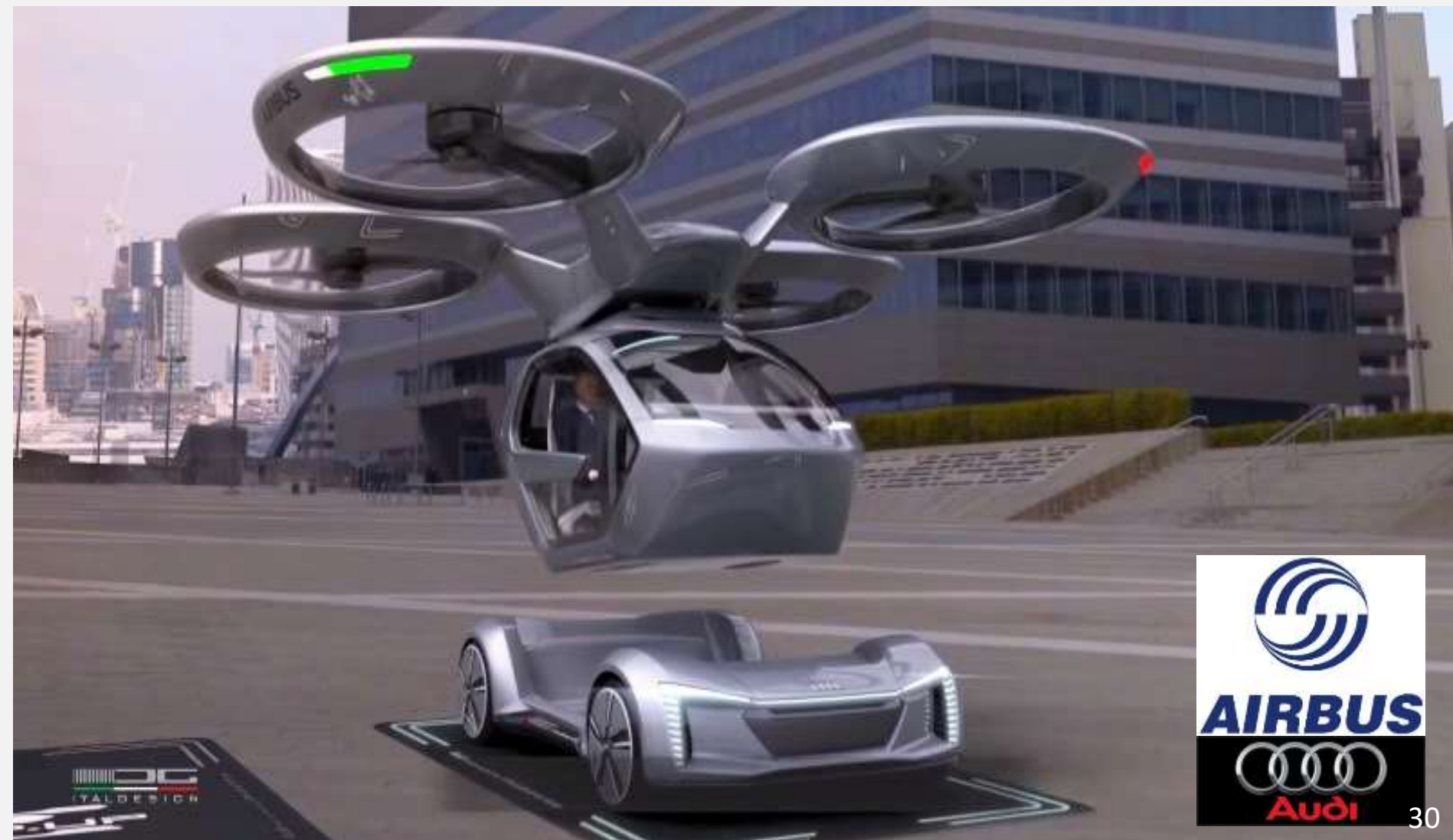
- ・ニューノーマル（ICTを使って、いつでも・どこでも）  
= レジリエンス（強靭さ）な社会・ビジネス



# つながる世界、社会

・物理的にもつながる

→ 次世代モビリティ（自動運転、空飛ぶクルマ）



# つながる世界、社会



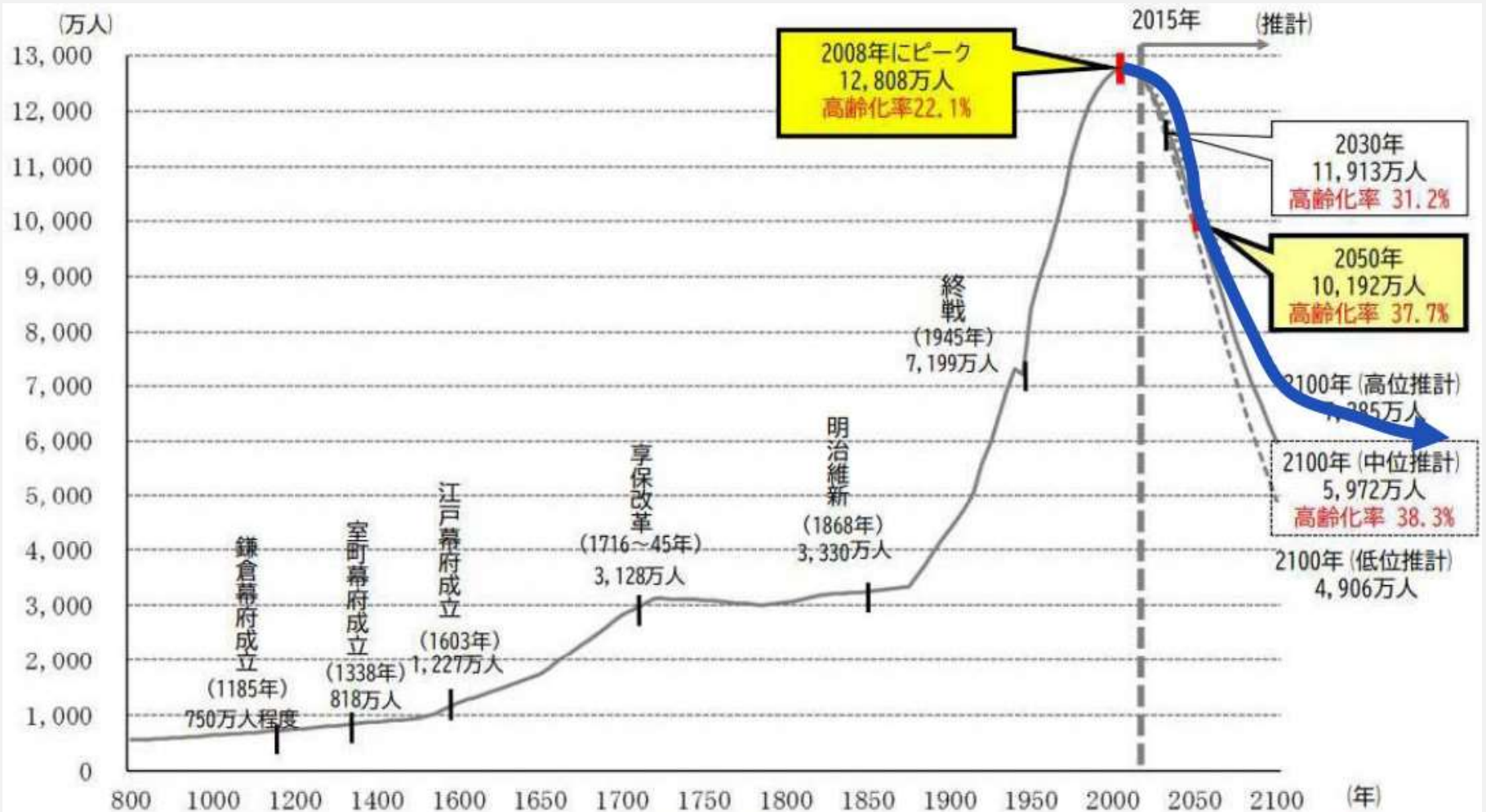
- ・ 自前は限界（オープン・イノベーション）  
外部から、最高・最適な資源を（資金さえも）

コワーキングスペースAGORA出島

→ ただし、環境・体制が必要  
（場所、分業・標準化、見える化）

# 成長が制約（我が国の人口減少）

・ 社会、ビジネスモデルの変更 → 需要駆動型に



(出典) 1920年までは、国土庁「日本列島における人口分布の長期時系列分析」(1974年)、1920年からは総務省「国勢調査」。なお、総人口のピーク(2008年)に係る確認には、総務省「人口推計年報」及び「平成17年及び22年国勢調査結果による補間補正人口」を用いた。2020年からは 国立社会保障・人口問題研究所「日本の将来推計人口(平成29年推計)」を基に作成

# ・ 社会、ビジネスも変更を余儀なく → **需要駆動型**に

- **人口増加局面**では、バス停に来るバスを待つなど、**需要が供給に合わせる**。しかし、**人口減少局面**では、迎いの車が顧客の都合に合わせて動くなど、**供給が需要に合わせる**ことになる。
- その実現には、**需給をリアルタイムで把握し、供給側の意思の確認を待たずに先にものやサービスを動かす、デジタル基盤が必ず必要**となる。

## 人口増加局面

(国内消費拡大局面)

需要が供給に合わせる経済

## 人口減少局面

(国内消費縮小局面)

供給が需要に合わせる経済

交通 乗客がバス停で時刻表のバスを待つ

労働 雇用先の就業ルールに従業員が合わせる

買い物 消費者が売っている店まで買いに行く

教育 特定の学校・カリキュラムに生徒が集まる

医療 特定の医療機関とかかりつけ医に通う

物流 供給者側の指示で物流が動く

行政サービス 市役所に行って、手続きを申請する

迎いの車が乗客の都合に合わせて

従業員の暮らしに就業ルールが合わせる

商品が消費者の家に届けられる

生徒の側が学校・カリキュラムを選ぶ

患者が医療機関と医師を選ぶ

重要動向に合わせて自動的に物が動く

通知を受け取り、手続きが自動的に行われる

- 人口も市場も増えるなら、供給からバリエーションを増やして、積極的に需給を調整できる。  
(バスの本数が増える局面なら、調整のしようもある。)  
→ 供給が需要に働きかけ、需要がそれに合わせる

- 人口も市場も減る局面では、供給はバリエーションを削るしかなく、重要なバリエーションにあわせようがない。  
(バスの本数が減る局面では、需要にあわせようがない。)  
→ 需要が供給に働きかけ、供給がそれに合わせる

# 価値観・優先度の変化（特に若い方には）



・自分の働く場所、時間、生き方

# 現実を超えた「別世界」も出現

- ・メタバース
- ・可能性と懸念



# メタバースのユースケース（用途） 4 類型



①エンターテインメント



②ビジネス（会議、商談）



④産業の現場（生産、物流）



③デザイン（設計、共同作業）

最新のデジタル・ICTを、「駆使」していく  
(人が「使われる」のではない)



**「DX」**

**Digital Transformation**

**(デジタル・トランスフォーメーション)**



# DXとは、「デジタル社会」への変革

本来のDX  
こちら

## ① 「デジタル活用」 (デジタルシフト)

(プロセスの置き換え、効率化)

作業状況・成果共有  
(エクセル、メール)



デジカメで画像とる  
(だけ)



現場へロボット



## ② 「デジタル社会・変革」 (トランスフォーメーション)

(新しい仕組み、価値を創り出す)

カー・シェア  
(保有から共有)



次世代モビリティ  
(ドローン、地域交通)  
(ニーズに応じて旅客・物流も)



リモートワーク  
/ワーケーション  
(時・場によらない)



# 驚きの2022年 (途中なのに！)

<下記を予期できていた方は、すごい>

①**電力不安** (地震・猛暑・燃料高等)

②**サイバー攻撃** (サプライチェーン危機)

③**ロシアのウクライナ侵攻** (サ)

④**サル痘**      ⑤**工業用水漏れ** (サ)

# <2022年のキーワード> 時代は、VUCA (ブーカ)

もともと、  
軍の用語

Volatility (変動性)

Uncertainty (不確実性)

Complexity (複雑性)

Ambiguity (曖昧性)

→ 先が読めない、正しいことが不明、未来は変わる  
(=教科書、先人は正しくない)

# <VUCAの時代、あるある>

(何をするか?)

→ 普段、連絡もしていない組織・人と、  
急に密な連携・情報交換しないと

(相手とどうやって?)

→ 分野・専門、知識、仕事の進め方、  
価値観、システムも全く異なる (相手も)

互いに「相手を知ってから」では間に合わない

< DXが目指すこと：不測への強さ >

「情報の共有」

と

「スピード」

デジタル・ICT

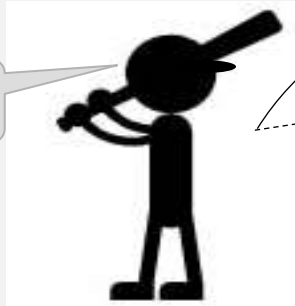
で実現！

→ 基本、これらがあれば、どんな場面でも  
なんとかなる（はず）

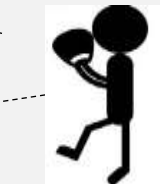
# 「情報共有」と「スピード」で成功をつかむ（野球の場合）

緊迫した読み合い

ストレートが来るな



フォークでいこう



球種が豊富で、  
予測困難なピッチャー  
(現在の社会・経済、  
将来のビジネス)

平凡なバッター（従来の企業）



ストレートと予想したら、  
フォークが来た。  
しかも、スイングが遅い  
ので、空振り...

ダイナミック・ケイパビリティの  
高いバッター（これからあるべき企業）



胸元まで引きつけ、球種を見極め、  
速いスイングとバットコントロール  
で確実にヒット！  
どんな球種にも瞬時に対応可能

【社会・経済、ビジネス】先が読めない時は、動向をギリギリまで見極めた方が、成功する確率が高い。ただし、成功できるのは、見極めた後、速やかに  
対応できる者のみ（=ダイナミック・ケイパビリティ）

# 例： 変化を捉える（自社内の見直し）（例：旅館「陣屋」）

## バックオフィスのデータ統一／スタッフの情報共有

- 目的→
- ①生産性の向上
  - ②省人化（人材不足の対応、ベテラン技のデジタル化）
  - ③顧客満足度の追求（リピータ・新顧客の獲得）



- ・借金10億円から、黒字化
- ・従業員間の情報共有
- ・顧客管理システムから進化（予約システム、駐車場のナンバー）
- ・スモールチャレンジ、全国展開（日本サービス大賞 総務大臣賞2018）

画像出典：  
鶴巻温泉 元湯 陣屋 旅館

# バックオフィスのデータ統一／スタッフの情報共有

- 目的→
- ①生産性の向上
  - ②省人化（人材不足の対応、ベテラン技のデジタル化）
  - ③顧客満足度の追求（リピータ・新顧客の獲得）

## 《これまで》

いらっしゃいませ！

今日はどのような、  
ご来店でしょうか？

（靴を買いに、決まっているだろうが）

お客様、足のサイズを  
測定させてください。

（また、足のサイズを測るのかよ、面倒）



## 《今後できれば》

三上さん、お久しぶりの  
ご来店ですね？

前は、●月頃、●色の  
●形の靴をお求めでした。  
履き心地はどうですか？

お好みの新作が出ました。  
サイズの在庫、あります。

そろそろ、息子さんの運  
動会では。徒競走で早く  
走れる靴ありますよ。。



# バックオフィスのデータ統一／スタッフの情報共有

- 目的→
- ①生産性の向上
  - ②省人化（人材不足の対応、ベテラン技のデジタル化）
  - ③顧客満足度の追求（リピータ・新顧客の獲得）

《どれだけの人・時間・金をムダにしている？》

A社のところで、当社へのクレームありまして。。。

（私も知らずに）Aさんのところに行ってきました。

それ早く教えてよ、つい先、A社長に会ったのに！

バラバラでは、訪問の効果がないのではないかな？



社員A



おカンムリな上司

社長



社員B

# 情報共有・スピードの例：（生産現場）

## デジタル・ツイン = 2つの世界が進行、触れる

**= 神様の視点を持てる**

Plant Simulationとは



物・人の流れをシミュレーションし、工場のKPIを 見える化 ⇒ 分析 ⇒ 改善

見える化

分析

改善

生産量	ボトルネック	生産性の向上
工程負荷	作業負荷割合	設備・人の稼働率向上
在庫量	在庫変動	在庫削減
製造コスト	費用対効果	投資削減



# 忖度

[名](スル)他人の心をおしはかること。また、おしはかって相手に配慮すること。  
【英】 think about how someone feels / guess about the feelings

(384pt)

**命が懸かったオペレーションでは、当然のこと  
→組織で情報共有し、同じ景色で同じ判断を  
(昇進のためでない)**

# 「情報の共有」と「スピード」

① 双方向で、「言葉」が通じるか？  
(表現、文法は共通か？)

→ データの取り方、名前、保存

② そもそも共有の「仕組み」があるか？

→ システム・アプリに加えて、  
活用する体制、運用ルール

「あらゆる地理空間情報」を「あらゆる環境」で活用

# 組織内・外のデータをマッシュアップ

外部組織のGISデータ  
(別のGISから配信等)



例：国土地理院様  
令和2年7月豪雨浸水推定図



例：国土交通省国土政策局様  
国土数値情報

GISプラットフォーム内のデータ

自組織のGIS

サービスで連携

ファイルで連携

一元化し、各業務へ活用

Esriが配信しているデータ

- ・降水ナウキャスト
- ・住所、道路データベース 等



他組織が配信しているデータ

例：内閣府・防災科研様  
CRS/ISU災害情報データ

3D都市モデル  
(ArcGIS CityEngine等)

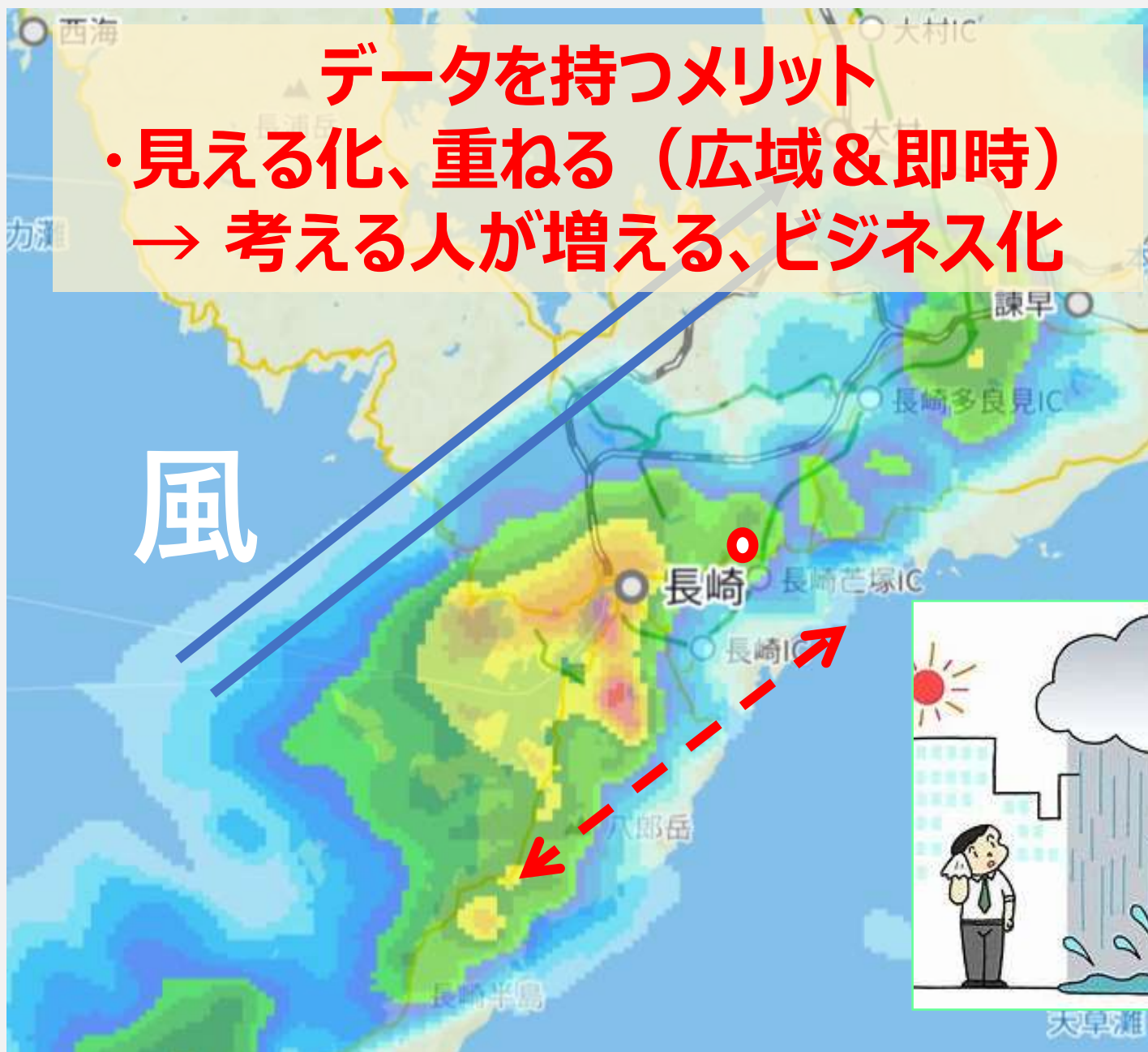


3D建物データ  
(BIMデータ等)

自組織のGISデータ

→ 単独データで見えなかった  
関係や効果が見えるように

ある朝（2021/8/26、8:20頃）の長崎市周辺の雨雲レーダー



## <経営トップに伝えていること>

- デジタル化／データ連携の難しさは皆、同じ（だから、全国で進んでいない）
- 突破には、「合理性（カンと経験でない）」に加えて、「やり遂げる覚悟」を持つ人財
  - ・ 組織内に、やる人材はいるか？
  - ・ 応援する体制はあるか？  
（評価する人、活用する人、つなぐ人）
- 必要な装備（投資）を「ケチらない」（人的リソースで劣っているなら、尚さら強化が必要）

# <経営トップに伝えていること>

## DX時代に求められる人材 (=人材が活躍できる組織)

これらを推す組織に  
なっているか  
(=文化を持つか)

	成長を阻むメンタリティを持つ	成長を継続、加速するメンタリティを持つ
心の持ちよう	<b>現状維持</b> このままがいい、変わりたくない 変えたくない	<b>現状維持はまずい</b> 成長への危機感 自身の現状・課題を客観視
未経験のこと	<b>やらない言い訳探し</b> 予算がない、前例がない、 実績がない	<b>挑戦の機会をできる限り増やす</b> まず動く、始める 人脈、ネットワークを拡げる
委任されると	<b>自分だけでは判断できない</b>	<b>答えを見つけて決断、実行</b>



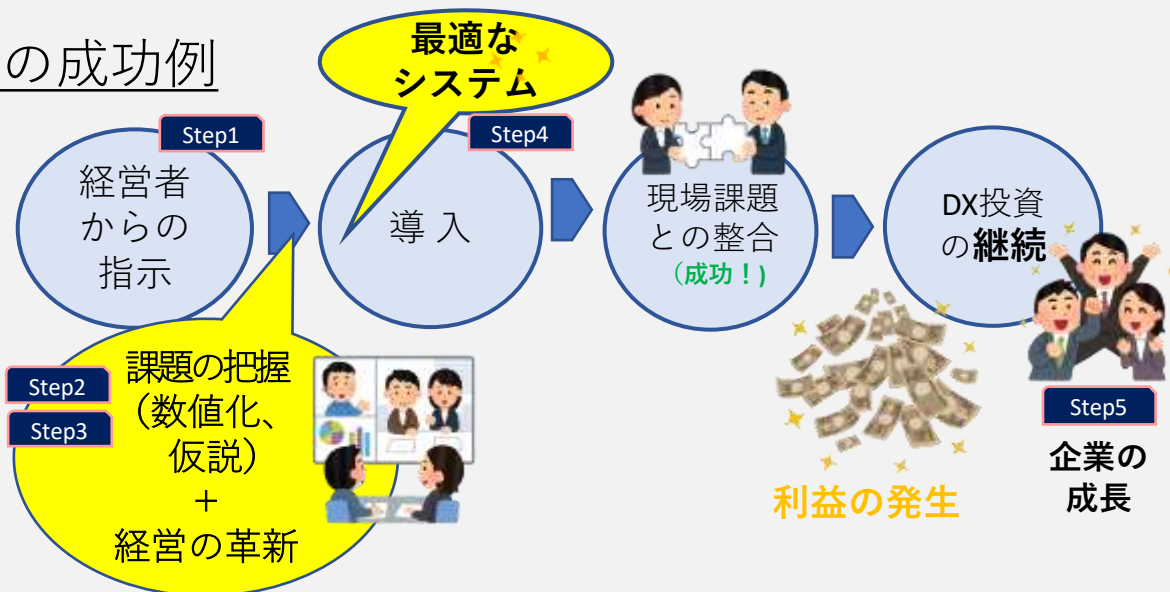


# “DX”してみる → 気合は大事、でも思いつきはダメ

## DXの失敗例



## DXの成功例



## DX実現プロセス

Step1

### 経営者の気づき

経営課題に関する経営者の気づき

Step2

### 評価

自社に合った導入ツールを検討、選択する

Step3

### 計画

導入ツールを選定し、具体的な計画を策定する

Step4

### 実行・継続

導入計画を実行・見直し、継続することにより生産性が向上

Step5

既存ビジネスの変革  
新規ビジネス創出

トランスフォーメーション = 「変わること」 (比べる前後あり)

→ 今から、「どのように」「どれくらい」変えたいのか?

そもそも、「今」を測って知っているのか?

## < DXに向けたマインド、姿 >

# DX - D + D

---

---

① まず、デジタル抜きで  
考えよう

---

---

② 次に、アプリ・ツールで  
ラクにできるかも

③ 今を測定  
(ここでデジタル化)

# < 我々は解決できる >

例えば： 我々は既に持っている（パワードされている）

<2022年でさらに機能は追加>

- ①ワイヤレスイヤホン、音声認証
- ②電子決済（非接触型）
- ③ヘルスマニタ
- ④LiDAR、AR機能
- ⑤顔認証

1980



2010



# 手始め、デジタルに動いてみませんか？

## ① 手短なところから（DXマインド）：ペーパーレス、データの取得

→ 仕事、体制をデジタルの方に合わせられるか？

## ② デジタル利活用を推す、横断的な専門チーム・人の設置

→ 誰かに情報を集約させて促進する役を作れるか？  
（権限と責任をしっかりと移譲、船頭を一人に）

あるある：情報システム部は  
庁内を動かせますか？

## ③ データの利活用をする雰囲気・文化づくり

→ チャレンジをほめる、失敗を許す、方向を示す  
（まず、部内・部下の動きを知る仕組みを持つことから）

# 小さな組織こそ、進化できる



Share on SNS



## この乱世を、 戦い抜く。

(イメージください)  
彼らが、デジタルツールを持っていたら、  
もっと上手く、大胆に、活用しているのでは



## 今は「デジタル戦国時代」 (使うか/使わないか)



乱世モード

かの有名な名将たちが、ここ現代に?!  
激動の戦国時代を戦った名将たちのリーダーシップには、  
この乱世を戦い抜くためのヒントが、きっと隠されている。

# 長崎県

「挑戦される方に、未来と仲間あり」

ご清聴、ありがとうございました

©長崎県観光連盟

長崎県 企画部・産業労働部 政策監（デジタル戦略担当）

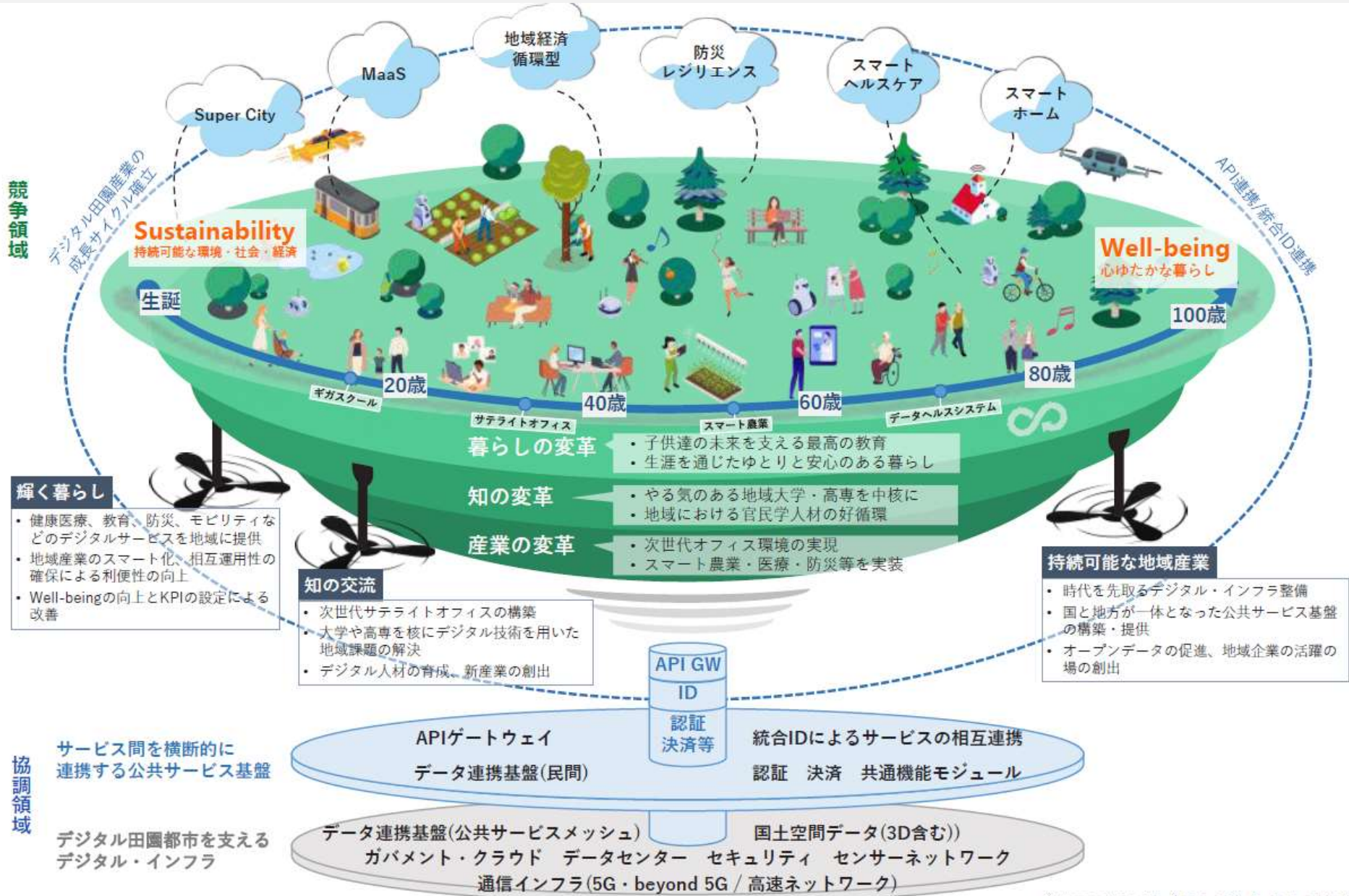
三上 建治 [mikami-kenji@pref.nagasaki.lg.jp](mailto:mikami-kenji@pref.nagasaki.lg.jp)

**(参考 1)**

**デジタル田園都市国家構想**

**採択事例**

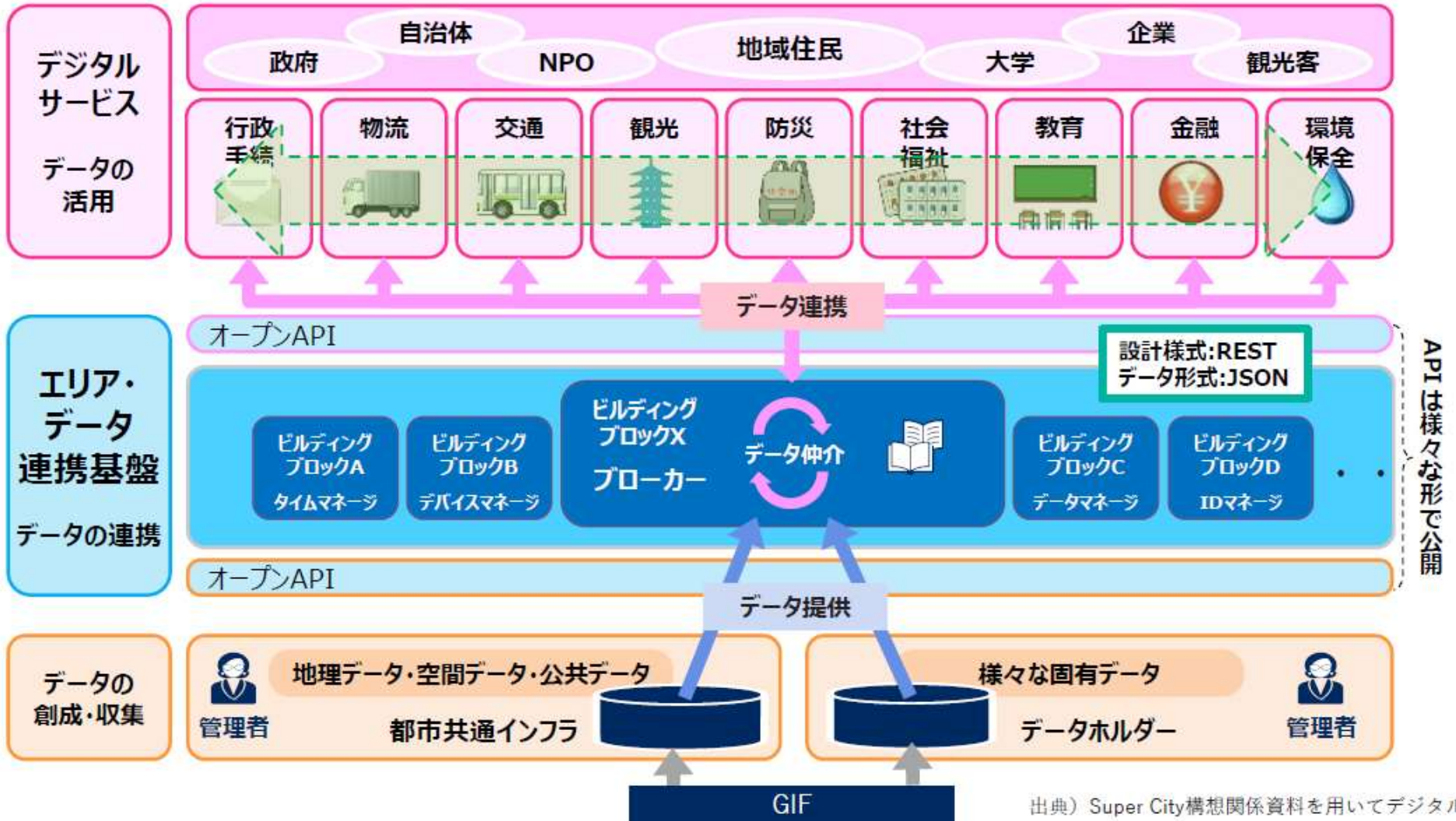
# デジタル田園都市国家構想（イメージ）





# 将来の社会インフラ： データ連携基盤

共助が支える新たなデジタル生活基盤とまちづくり



# デジタル田園都市国家構想推進交付金 採択結果

(令和4年度、デジタル実装タイプTYPE2/3※)

※データ連携基盤を活用し、複数のサービス実装を伴う取組

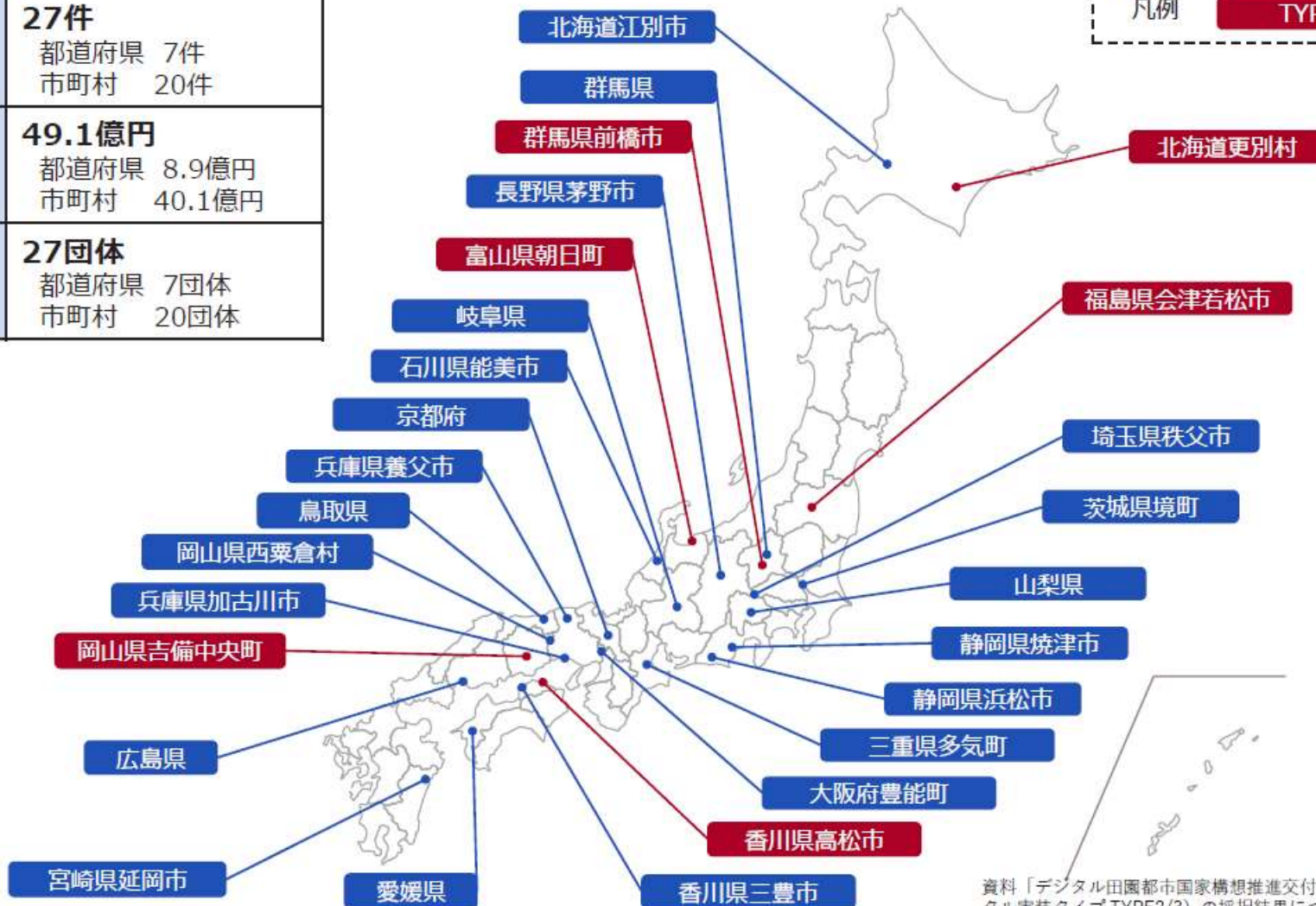
## <採択結果>

採択事業件数	<b>27件</b> 都道府県 7件 市町村 20件
採択金額 (国費)	<b>49.1億円</b> 都道府県 8.9億円 市町村 40.1億円
採択団体数	<b>27団体</b> 都道府県 7団体 市町村 20団体

採択タイプ  
凡例

TYPE2 (Blue)

TYPE3 (Red)



資料「デジタル田園都市国家構想推進交付金（デジタル実装タイプTYPE2/3）の採択結果について」

# デジタル田園都市国家構想推進交付金 採択結果

## (令和4年度、デジタル実装タイプTYPE2/3)

＜多分野サービス型＞

**TYPE3** 福島県 会津若松市

【採択額 約5.53億円(国費)】

### 「複数分野データ連携の促進による共助型スマートシティ推進事業」

実施地域	会津若松市	事業費	830,200千円
実施主体	会津若松市、一般社団法人スーパーシティAiCTコンソーシアム、公立大学法人会津大学 他		
事業概要	本市の人口減少の大きな要因となっている若年層の転出超過を抑制し、地元で「暮らし続けることのできるまち」「暮らし続けたいまち」を実現する為、地域産業基盤強化のための地域産業DXとWell-Beingを向上する市民生活DXの取組として、ICTオフィス「スマートシティAiCT」を中心とするICT産業の集積など約10年にわたるスマートシティの取組の成果を活かしながら、「食・農業」「観光」「決済」「ヘルスケア」「防災」「行政」等の各分野にわたるデータ連携と付加価値の創出に繋がるデジタルサービスを実装する。		



デジタル田園都市国家構想推進交付金 (デジタル実装タイプ TYPE2/3) の採択結果について (内閣府地方創生室)

[denenkouhukin\\_saitaku\\_type23rr.pdf](https://denenkouhukin_saitaku_type23rr.pdf) ([chisou.go.jp](https://chisou.go.jp))

# デジタル田園都市国家構想推進交付金 採択結果

## (令和4年度、デジタル実装タイプTYPE2/3)

- デジタル田園都市の実現に向け、様々なプロジェクトを持続可能な産業へと育てていく仕組み作りが重要。このため、TYPE2/3では、各テーマ別取組（TYPE1）から一歩進め、広域連携や特定分野を核に対応分野を広げるタイプ、技術を工夫し応用分野を広めるタイプ、一挙に、包括的サービスの提供や総合的なスマートシティの構築に進むタイプなど、いくつかの特徴ある取組を採択。

【スタート】 → 【メニューの拡充】 → 【エコシステム作り】 → 【好循環へ】

### Type I の領域

#### ■ 各テーマ別サービス

**広域連携型**  
複数自治体間で積極的にサービスメニューを共有し、生活経済圏を構築。【多気町Ⅱ、秩父市Ⅱ】

#### 技術工夫型

地理空間データやAI搭載カメラなど、先進的な基盤を整備し、サービスへの実装を展開。【加古川市Ⅱ、高松市Ⅲ、広島県Ⅱ など】

#### 多分野サービス型

大学や事業者のネットワークを核に、先端産業の誘致や技術実証を実施。多分野にわたるサービスを提供し、その相乗効果を追求する、総合的なスマートシティの取組。【会津若松市Ⅲ、前橋市Ⅲ】

#### ■ サービス間連携の充実とデータ連携基盤確立

#### ■ 新しいビジネスの創出

Well-Being  
の向上サイクル

#### ■ 包括的サービス

#### 特定分野リード型

医療、モビリティ、行政DXなど特定分野を深掘りしつつ、他分野との相乗効果を追求。

【医療：茅野市Ⅱ、吉備中央町Ⅲ】  
 【モビリティ：群馬県Ⅱ、境町Ⅱ】  
 【行政DX：養父市Ⅱ、山梨県Ⅱ】など

#### ■ スタートアップ・エコシステム

**シビックテック・エコシステム型**  
 市の認定VCなどがスタートアップを支援。シビックテックを積極的に採用【浜松市Ⅱ】

#### ■ 市民参加・コミュニティの充実

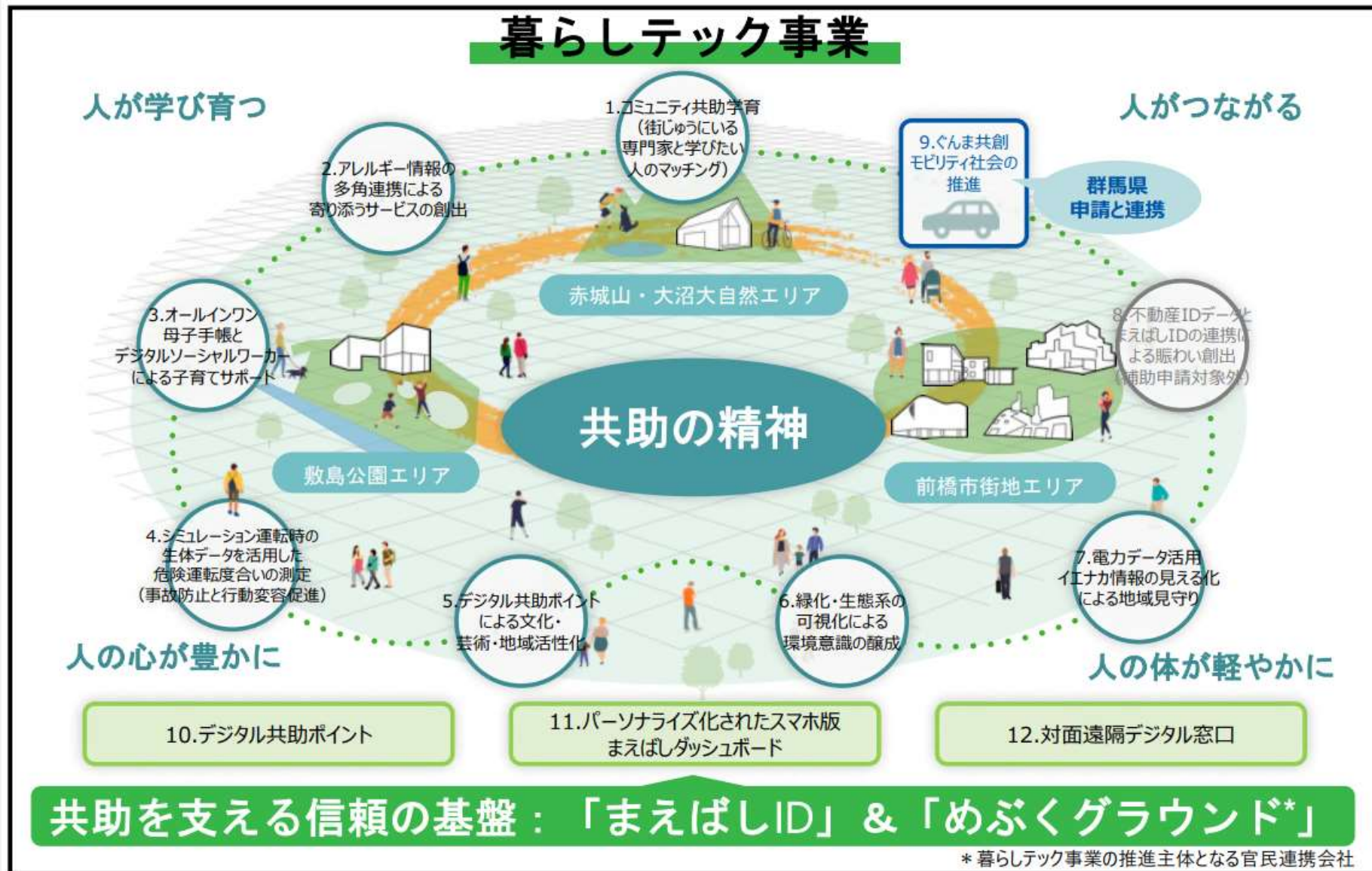
#### 包括的サービス型

市民を巻き込み、暮らしを支える様々なサービスを、月額定額で一括提供する、パーシクインフラ・サービスに挑戦。インキュベーションの仕組み作りも。【三豊市Ⅱ、更別村Ⅲ】

### Type II・Ⅲの領域

# デジタル田園都市国家構想推進交付金 採択結果 (令和4年度、デジタル実装タイプTYPE2/3)

<他分野サービス・特定分野リード型> 群馬県前橋市

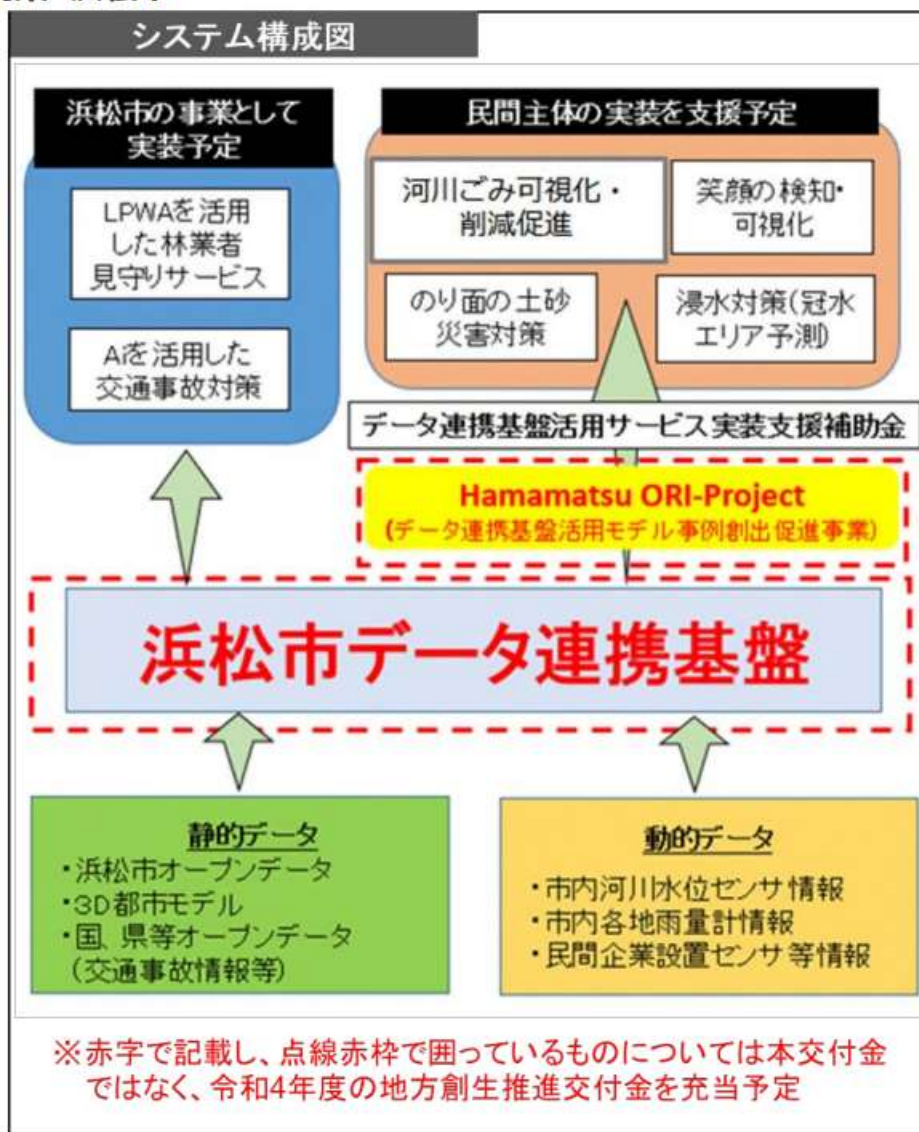


# デジタル田園都市国家構想推進交付金 採択結果 (令和4年度、デジタル実装タイプTYPE2/3)

〈シビックテック・エコシステム型〉

TYPE2

静岡県 浜松市



デジタル田園都市国家構想推進交付金（デジタル実装タイプTYPE2/3）の採択結果について（内閣府地方創生室）

[denenkouhukin\\_saitaku\\_type23rr.pdf](https://denenkouhukin_saitaku_type23rr.pdf) ([chisou.go.jp](https://chisou.go.jp))

**(参考 2)**

**デジタル人材の育成・確保**

# デジタル人材育成・確保の重点領域（政府）

## デジタル人材育成プラットフォームの構築【経済産業省】

- ・デジタルスキル標準の設定
  - 全てのビジネスパーソン向けデジタルスキル標準作成（2021年度末まで）
  - DX推進人材向けデジタルスキル標準作成（2022年中）
- ・デジタルスキル標準に基づいた教育コンテンツの整備（2024年度教育コンテンツ受講者6.8万人/年）
- ・地方におけるDX促進活動支援（2024年度までに地方DX拠点を20箇所創設）  
地域の企業・産業のDXに必要なデジタル人材を育成・確保すべく、実践的な学びの場の提供等を行うデジタル人材育成プラットフォームを構築するとともに、スキル・レベルの可視化に向けた環境整備を行う。

プログラム開発や  
教育訓練給付の  
指定講座への追加等



地方DX拠点と数理データ  
サイエンスAI教育強化拠点  
コンソーシアムの連携協力等



## 職業訓練のデジタル分野の重点化【厚生労働省】

- ・公共職業訓練、求職者支援訓練、教育訓練給付におけるデジタル分野の重点化（厚生労働省）  
（2024年度デジタル分野の訓練受講者70,000人/年）  
IT分野の資格取得を目指す訓練コースの訓練委託費等の上乗せなどによりデジタル分野の重点化を実施。
- ・人材開発支援助成金の拡充（厚生労働省）  
（2024年度デジタル分野の受講者65,000人/年）  
IT技術の知識・技能を習得させる訓練を高率助成に位置づけることなどによりデジタル人材の育成を推進。



高等教育機関  
等でのプログラム  
開発を踏まえた  
教育訓練給付  
の指定講座への  
追加等

## 高等教育機関等におけるデジタル人材の育成確保【文部科学省】

- ・数理・データサイエンス・AI教育の推進  
（2025年に応用基礎25万人/年）  
各大学等の成果を全国へ普及・展開させるためのコンソーシアム活動等への支援を通じ、大学等において、文理を問わず数理・データサイエンス・AIを応用する力を持った人材の育成を加速
- ・リカレント教育の推進（受講者1,000人/年）  
大学・専門学校等が自治体や企業等と連携してDX等成長分野に関してリテラシーレベルの能力取得・リスキリングを実施するプログラムを支援。

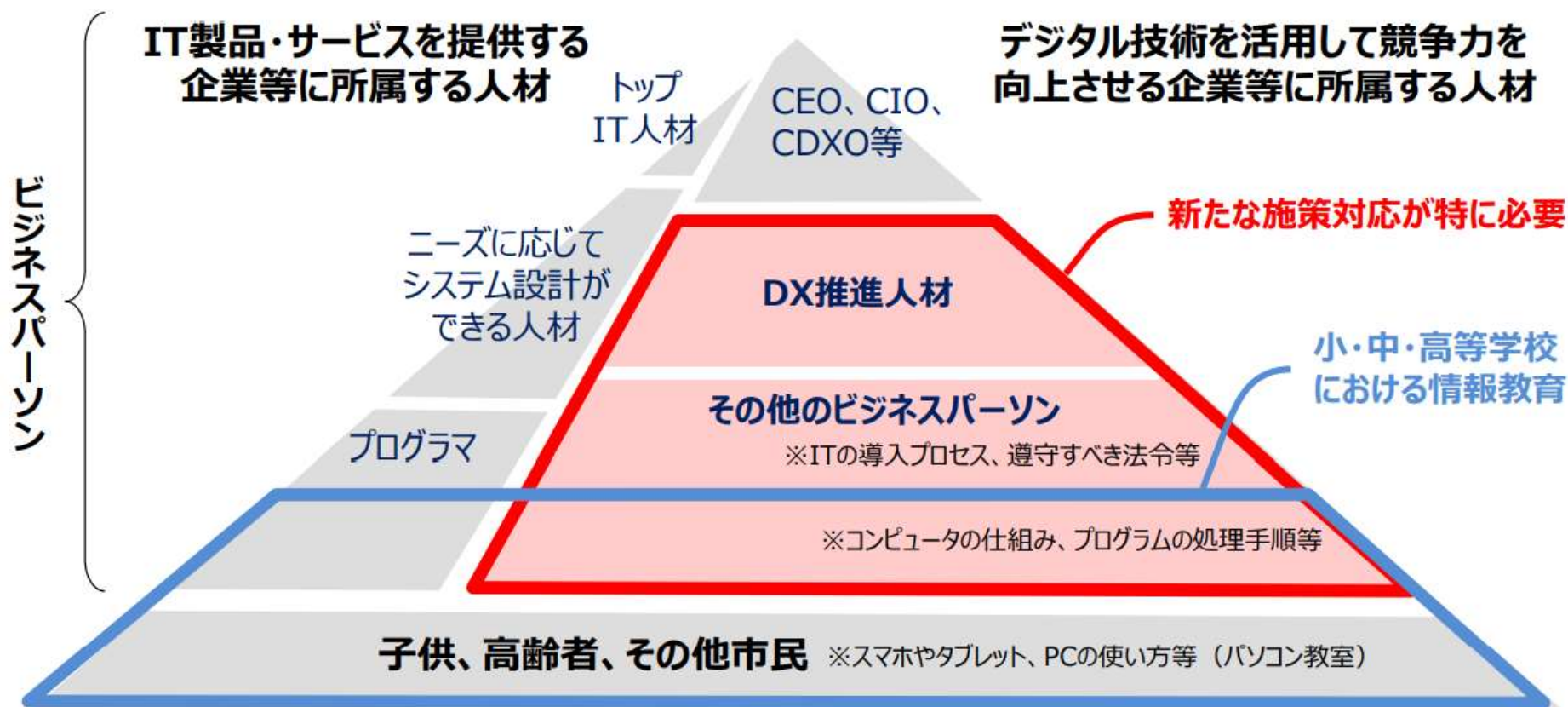
## デジタル人材の地域への還流促進【内閣府等】

プロフェッショナル人材事業、先導的人材マッチング事業等による地域企業の経営課題解決に必要なデジタル分野等の人材確保に向けた支援や、地方創生移住支援事業、地方創生起業支援事業等による移住等を通じたデジタル人材の地域への還流を促進。



# デジタル社会における人材像（経済産業省）

- デジタル社会においては、全ての国民が、役割に応じた相応のデジタル知識・能力を習得する必要がある。
- 若年層は、小・中・高等学校の情報教育を通じて一定レベルの知識を習得する。現役のビジネスパーソンの学び直し（＝リスキング）が重要。



# 新たなデジタルスキル標準の整備（使う人向け）

- 企業のデジタルトランスフォーメーションを進めるためには、ユーザー企業等においてデジタル技術をビジネスにどう生かすかを考える人材が不可欠。「デジタルを使う人材」を評価するためのデジタルスキル標準を整備する。
- 新たなデジタルスキル標準については、別途、検討の場を設け議論を行う。

アプリ

デジタルを 作る 人材

現行デジタルスキル標準（ITSS）

Lv.4 …分野別の高度試験+実務経験に対応

ITアーキテクト

ソフトウェア開発

...

ITサービス管理

Lv.3 …応用情報技術者試験に対応

Lv.2 …基本情報技術者試験に対応

Lv.1 …ITパスポート試験に対応



デジタルを 使う 人材

新たなデジタルスキル標準

DX推進人材向けの専門スキル標準  
…2022年に新たに整備

アーキテクト

経営企画

プロダクト管理

顧客

マーケティング

バックオフィス

セキュリティ

データサイエンス

エディタ

オペレータ

分類については今後検討

※（双方向で「通じる」世界に）  
※今は「病状を述べられない」

一部内容が重なることが想定される



全てのビジネスパーソン向けのリテラシースキル標準  
…2021年度に新たに整備